

## 第 2 部

# 專業計畫



**基本目標 1**

**地域で子育てを支援するまちづくり**

心身ともに健康な子どもを育てるには、行政の支援に加えて地域の人々の理解と協力が不可欠です。子育てを支える地域社会の実現を目指し、市民の皆さんとの協働による子育て支援を推進します。

**主要課題 1 - 1 情報提供・相談体制の充実**

**主要課題 1 - 2 地域における子育て支援サービスの充実**

**主要課題 1 - 3 保育サービスの充実と多様化**

**主要課題 1 - 4 子育て支援のネットワークづくり**

**主要課題 1 - 5 経済的支援の充実**



この冊子のカットは、市役所のキッズコーナーに来た子どもたちが描いたものです。

主要課題 1 - 1

情報提供・相談体制の充実

現状

- ・核家族化が進展し、従来のように家庭の中で、経験から得られた子育ての知恵が、祖父母から父母へ、父母から子へ伝承されるケースは少なくなっています。
- ・マスメディアを通じて子育てについての多様な情報が氾濫し、親たちが子育てのあり方を見失いやすい状況にあります。
- ・子育て家庭と地域の人々との交流が少なくなる中で、孤立し、家庭の中でひとり子育てに悩む親が増加しているため、子育て中の親たちが気軽に子育ての悩みや不安を話し合ったり、相談できる場の提供に努めています。
- ・各相談窓口で、それぞれの事情に応じた適切な支援がなされる必要があります。

市民の声

- ・育児情報がたくさんありすぎて、適切な情報がどれかを判断することが困難である。
- ・子育て情報を適切に取捨選択し、うまく利用する方法を教えてください。
- ・幼稚園に入ってからでは子育て情報が手に入りやすくなったが、子どもの小さい時に、子育て情報がうまく伝わる方法を考えることが必要。
- ・育児情報が氾濫しているが、むしろ子育て経験のある年長者のアドバイスの方が役立つ場合がある。
- ・子育ての悩みを持つ親たちが情報交換したり、悩みを相談できる場所が地域にほしい。
- ・子育ての専門家や小児科医などが 地域に出向いて講習をするのがよい

施策の方向

- ・子育てへの悩みや不安を少しでも解消するため、市民ニーズを的確に捉えながら、広報やインターネットなどの活用を図るほか、子育て支援情報誌を発行するなど、子育て情報の積極的な提供に努めます。
- ・子育ての不安を解消し、子どもの健やかな成長を支援するため、各種相談機能の充実と関係機関との連携の強化に努めるとともに、総合相談体制の整備を図ります。

計画事業

- かまくら子育てメディアスポットの充実 (P65-1-1-1)
- 「かまくら子育てナビきらきら」の発行 (P65-1-1-2)
- 子育て情報の提供 (P65-1-1-3)
- 各種相談事業の充実及び連携 (P65-1-1-4)
- 地域子育て相談体制 (P65-1-1-5)
- 「こどもと家庭の相談室」の開設(新規)(再掲) (P65-1-1-6)
- 育児相談及び講演会 (P65-1-1-7)
- 地域の民生委員児童委員、主任児童委員の活動 (P65-1-1-8)

計画事業における は、市の事業を意味します。 は、市民活動事業を意味します。

計画事業の詳細は第2分冊に整理しています。ページとコードでご参照ください。

(新規)の表示は、5年間の計画期間内に新たに実施することを考えている事業を意味します。

主要課題 1 - 2

地域における子育て支援サービスの充実

現状

- ・少子高齢化が進展する中、従来のように地域の人々がお互いに助け合って子育てをすることが難しい状況になっています。
- ・核家族化や女性の社会進出などにより、家庭だけに育児の役割を求めることが困難になっています。
- ・ライフスタイルや就労形態が多様化する中で、それぞれの子育て家庭に応じた支援サービスが求められています。
- ・地域の人々が子育てについてお互いに助け合っていける仕組みづくりが必要です。
- ・共働き家庭の増加は、就学前の児童だけでなく、小学校の児童の家庭環境にも変化をもたらしており、留守家庭の児童が、放課後、安全に生活できる取組が必要

市民の声

- ・地域子育て支援センターが市内に2カ所というのは少ないし、アクセスや利用できる時間、広さに問題がある。
- ・市内各地域に子育て支援センターを設置してほしい。
- ・子ども会館はあるが、十分に機能していないので、そこに子育て支援センターの機能をもたせるなど、子育て中の親の交流の促進のために、様々な方法を考えることが必要である。
- ・子どもが病気のときに、一時的にでも預かってもらえるところがほしい。
- ・ファミリーサポートセンターは、様々な年代と性別の人々がふれあえる、よい機会である。
- ・ファミリーサポート的発想による、子育て応援団のようなものを地域に広げていきたい。
- ・小学校区に1施設の預かり保育、学童保育をしてもらえる所がほしい。専門の先生がついて、いつでも誰でも利用でき割安で短時間でも身軽に預けられるといい。
- ・独りで留守番させることが不安だから、学童保育を19時まで延長してほしい。(4月から小学生になるのだが、親が19時まで帰ってくるできない)

施策の方向

- ・すべての子育て家庭への支援を行う観点から、一時保育などの様々な支援サービスの充実を図ります。
- ・地域における子育て家庭を支援するため、子育て支援センターの増設を図るとともに、子ども会館の整備に努めます。
- ・留守家庭児童が、放課後、安全に生活できるようにするため、学童保育施設の整備・充実を図るとともに、開設時間の延長について検討します。
- ・子育ては地域全体とするものという観点に立って、地域の人々が協力して、子育て家庭を支援していく仕組みづくりを進めます。

計画事業

子ども会館 (P66-1-2-1) 子どもの家 (P66-1-2-2) 障害児のための子どもの家の受入れ (P66-1-2-3) 公立保育所の拠点化 (P66-1-2-4) 子育て支援センターの充実 (P66-1-2-5) 保育園における地域育児センター活動の拡大 (P66-1-2-6) つどいの広場事業 (P66-1-2-7) 保育施設の整備・活用 (P66-1-2-8) 市主催事業における託児サービス (P66-1-2-9) ファミリーサポートセンター (P67-1-2-10) 在宅子育て家庭訪問支援事業 (新規) (P67-1-2-11) 空き店舗を活用した保育サービス等提供施設の促進 (P67-1-2-12) 一時保育 (P67-1-2-13) 病後児保育(施設型) (P67-1-2-14) 家庭保育福祉員制度の充実 (P67-1-2-15) 短期入所生活援助(ショートステイ)事業 (P67-1-2-16) 夜間養護等(トワイライト)事業 (P67-1-2-17) 特定保育事業 (P68-1-2-18) 多世代交流地域共同拠点の創設 (P68-1-2-19) 地域開放 (P68-1-2-20) 幼稚園における学童保育 (P68-1-2-21) 乳幼児親子の会 (P68-1-2-22) 青空自主保育 (P68-1-2-23) 青空自主保育 (P68-1-2-24) 地域の中での子育て支援事業 (P69-1-2-25) かまくらママ Sカレッジ (P69-1-2-26) ミニママカレ (P69-1-2-27) 子育てサロン (P69-1-2-28)

## 主要課題1 - 3 保育サービスの充実と多様化

### 現状

- ・子育て家庭のそれぞれの事情にあった保育サービスが求められています。
- ・女性の社会進出や就労形態の多様化に伴う保育ニーズに応える必要があります。
- ・子どもを健やかに育てるため、保育の質の向上が求められることから、サービスを客観的に評価する仕組みが必要です。

### 市民の声

- ・保育園では、はしかやおたふく風邪などにかかるると登園禁止になり、1週間～10日は強制的に休まされるため、共働きのどちらかが交替で仕事を休まなければいけない。
- ・土曜日又は日曜日に仕事がある人もいるので、19時まで開設してほしい。
- ・行政が保育サービスの質の確保に配慮する必要がある。

### 施策の方向

- ・多様化する保育ニーズに対応するため、延長保育などのサービスを充実するとともに、休日保育などの新たなサービスを検討します。
- ・保育サービスの質を高めるため、第三者によるサービス評価や苦情処理の仕組みを導入します。

### 計画事業

延長・夜間保育（P70-1-3-1） 休日保育（P70-1-3-2）  
低年齢児保育産休明け保育（P70-1-3-3） 統合保育（障害児保育）（P70-1-3-4）  
保育園児の健康管理（P70-1-3-5） 送迎保育ステーション事業（新規）（P70-1-3-6）  
保育サービス評価（新規）（P70-1-3-7）  
預かり保育（P70-1-3-8）  
幼稚園児の健康管理（P70-1-3-9）

主要課題1 - 4

子育て支援のネットワークづくり

現状

- ・子育てを支援する活動については、関係機関・団体がネットワークをつくり、多様な対応を図ることができる体制づくりが必要です。
- ・各種の子育て支援サービスや資源が活用されるよう、子育て支援情報誌の作成・配布やホームページ等による情報提供に努めています。

市民の声

- ・地域の人々の間で、子どもを一時的に預かってくれるとよい。特に地域の中で様々な年齢の人間が互いに交流し、支え合えるようにしてほしい。
- ・子育て中の親が地域から孤立すると、ストレスや不安のために苦しむ。
- ・地域の間人間関係が希薄になっていることが、子育てに限らず、地域福祉全般の問題である。
- ・地域で、日頃からお互い挨拶し、交流を深めることによって、コミュニティをつくる。
- ・子育て中の母親のストレス解消が問題であるが、子ども連れで、親が子育てサークルに入り、明るくなっている。
- ・地域の中で任意で活動している団体と団体をつなげるネットワークづくりを。

施策の方向

- ・子育て家庭に対し、子育て支援サービスや保育サービスの充実を図るとともに、サービス提供の裾野を広げる観点から、地域の人々やボランティア、NPOとの協働による子育て支援体制づくりを目指します。
- ・子育て支援のために、常に新鮮な情報の提供に努めます。

計画事業

- ネットワークの促進 (P71-1-4-1)
- 「かまくら子育てナビきらきら」の発行(再掲) (P71-1-4-2)
- 地域福祉活動 (P71-1-4-3)

主要課題1 - 5 経済的支援の充実

現状

- ・近年、持ちたいと思っている子どもの数よりも、実際の子どもの数が少ないという家庭が増加していますが、その最大の理由は、子育てにかかる経済的負担の大きさにあると言われています。
- ・子育てにかかる親の経済的負担を軽減していくことが課題です。

市民の声

- ・少子化が止まらない要因として、子育て・教育の経済的負担の大きさがある。
- ・各種手当の所得制限については、所得が少ないからお金が必要だといえども、所得が多いから、お金が必要ない、とはいえない。
- ・国や自治体レベルで、子育て家庭のために思い切った経済的支援をする。
- ・子どもが病院に通うのは4歳ぐらいまでが多いので、その年齢までは、所得制限を撤廃するとよい。
- ・医療費の助成、保育園、幼稚園の利用料の補助などの経済的支援を充実させてほしい。
- ・医療費については、所得制限をはずしてもいいと思う。
- ・子どもが小児喘息だったが、医療費助成対象年齢を上げ、所得制限を緩和してほしい。

施策の方向

- ・少子化の大きな原因のひとつである子育て負担を軽減するため、私立幼稚園等就園奨励費補助金や小児医療費助成等の支援を充実します。
- ・児童手当など国や県の各種手当制度の動向等を踏まえ、その充実について国、県へ要請します。

計画事業

- 私立幼稚園等就園奨励費補助金の交付 (P72-1-5-1)
- ひとり親家庭の家賃の助成 (P72-1-5-2)
- 小児医療費助成 (P72-1-5-3)
- ひとり親家庭の医療費の助成 (P72-1-5-4)
- 障害者医療費助成 (P72-1-5-5)
- 就学援助事業 (P72-1-5-6)
- 奨学金給付事業 (P72-1-5-7)
- 児童手当 (P72-1-5-8)
- 児童扶養手当 (P72-1-5-9)
- 特別児童扶養手当 (P72-1-5-10)
- ひとり親家庭等児童の大学進学支度金 (P72-1-5-11)
- 遺児卒業祝金贈呈 (P72-1-5-12)